

## 第 16 回 高大連携協議会（機械系）議事録

日時：令和 2 年 11 月 27 日（金）15:00～16:45 会場：宮崎大学工学部 A 棟 A203 大会議室

出席者（敬称略・順不同）：

<工業高校>

中城 剛（延岡工業），上田 雅史（日向工業），川野 和彦（佐土原）  
 中城 清治（宮崎工業），高妻 智仁（小林秀峰），陰山 淳一（都城工業）  
 竹田 英一（日南振徳）

<宮崎大学>

申 炳録，鄧 鋼，長瀬 慶紀，河村 隆介，大西 修  
 盆子原 康博，木之下 広幸，山子 剛，友松 重樹，古池 仁暢

進行：陰山 淳一（都城工業）

記録：河村 隆介（宮崎大学）

### 協議内容

担当

議事に先立ち，出会者の自己紹介を行い，配布資料を確認した。

全員

#### （1）高校側状況報告

令和 2 年度の高校 3 年生の令和 2 年 11 月時点における進路決定状況について，各高校から以下のとおり報告があった。

陰山，  
各校教諭

延岡工業高校：機械科の就職決定者は 32 名，進学合格者は 1 名。県内・県外の就職割合はほぼ同じで，県内では延岡市内への割合が多い。

日向工業高校：機械科の就職決定者は 34 名，進学合格者は 2 名。昨年度よりも県内就職者が増加した。

佐土原高校：電子機械科の就職決定者は 46 名，進学合格者は 12 名。県内・県外の就職割合はほぼ同じで，中部地区の自動車業界への割合が多い。

宮崎工業高校：機械科，生産システム科の就職決定者は 26 名，31 名，進学合格者は 7 名，4 名。県内の就職割合が多い。スポーツ推薦による大学進学者もいる。

小林秀峰高校：機械科の就職決定者は 24 名，進学合格者は 10 名。県内・県外の就職割合はおよそ 4：6 であるが，県内が増えつつある。

都城工業高校：機械科，情報制御システム科の就職決定者は 27 名，18 名，進学合格者は 3 名，12 名。県外の就職割合が多い。

日南振徳高校：機械科の就職決定者は 26 名，進学合格者は 3 名。電気科の進学合格者の内 1 名が，宮崎大学工学部工学科の総合型選抜で機械知能工学プログラムに合格。

#### （2）大学側状況報告

令和 2 年度の機械設計システム工学科入学生 56 名，工学研究科機械・情報系コース機械設計システム工学分野入学生 21 名。5 月から前学期授業を遠隔形式によ

陰山，河村

り開始。7月に令和3年4月の工学部組織改編認可あり，機械設計システム工学科は，機械知能工学プログラムに改組。8月に大学のオープンキャンパスをWeb形式により実施。9月に秋季学位記授与式を実施，DDP修了生1名。令和元年度の就職者は学部卒業生21名，修士修了生20名，進学者は27名。令和2年11月時点における就職内定者は学部4年生51名，修士課程2年生23名であることが報告された。

### (3) 新型コロナウイルスによる学校教育の影響とその対応について

高校では，5月中旬まで臨時休校，5月下旬より平常登校になった。休校期間中，自宅での課題による自主学習を余儀なくされた。その結果，学習意欲のある生徒とそうでない生徒の取り組みの差が生まれたことが報告された。年度初めの各種検診，各種調査，オリエンテーション，高校総体や修学旅行などの各種行事が中止あるいは短縮された。部活動に時間を費やしてきた生徒たちには，目標が失われたことによる失望感がダメージとなった。授業の状況については，長期休暇の短縮により，例年と同程度の授業時間数を確保し，授業の進度に遅れは生じなかったと報告した高校が多い。製図や実習など実技的な学習は，感染防止対策を徹底した上で実施されたが，課題研究の時間数が減少し，時間的遅れを取り戻すことは困難であることが報告された。また，前期の各種国家技能検定試験やインターンシップや県内企業見学などの中止により，生徒のキャリア意識の醸成に弊害があると不安を感じている。オンラインでの企業説明会・採用試験などが取り入れられ，就職活動の様式が変化していることの報告があった。

大学では，4月上旬に教育・学生支援センターと情報基盤センターの主催による専任教員および非常勤教員を対象とした遠隔授業に関する研修会が開催された。4月から臨時休講の後，5月中旬から遠隔授業を開始した。遠隔授業の方法として，Webページ，SNSや履修管理システムを通じてビデオや音声付きスライド等からなる講義資料のインターネット配信を行うオンデマンド型，ビデオ会議システムを用いて教員と学生とが互いに音声や映像等のやりとりを行う同時双方向型，両者のハイブリッド型が用いられた。また，試験の方法として，通常の見聞式のほか，履修管理システム上でテストやアンケートに回答させたり，レポートを提出させたりするインターネット配信式により行われた。また，6月から感染予防対策を講じた上で，実験・実習，演習，セミナーが対面形式で実施されるようになった。後学期から工学部7学科の座学で4週に一度の割合で対面授業が行われるようになった。さらに，1年生は十分な履修指導ができていない，大学生活に馴染めていないのではないかとの指摘を受け，1年生を対象として優先的に対面授業を行うようになったと報告があった。

### (4) 今後の高大連携について

令和2年度に計画されていた当協議会主催による工業高校生のための大学での

河村，  
各校教諭，  
各教員

河村，陰山

インターンシップ（授業体験）、宮崎県教育委員会主催による大学生のための県内高校でのスクールトライアルも余儀なく中止された。令和3年度、県内において新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた場合には、工業高校生のための大学でのインターンシップを8月下旬に開催予定とすることにした。その際、令和3年6月頃、大学から工業高校へ開催案内を行う予定とすることにした。また、令和3年度に県教育委員会がスクールトライアル事業を実施することになれば、新プログラムの入学生と学科2年生へ参加案内を行うこととした。

（5）その他

工学部同窓会では、宮崎で働きたい在學生や宮崎で転職したい卒業生を対象に、卒業生・修了生OB、OGが活躍している企業の情報誌「みやざき就勝ガイド」を発行して情報提供を行っていることが紹介された。工学部同窓会による就職活動への支援について工業高校生にも知っていただき、本学への進学希望を持っていただきたいとの意見があった。

以上

木之下，  
友松

<敬称略>



第16回高大連携協議会（機械系）の様子（2020年11月27日 宮崎大学工学部）

協議会の趣旨（2006.10.26 第1回高大連携協議会（機械系）にて趣旨説明あり）

- 高校と大学の専門分野（機械系）のカリキュラムについて、相互理解を深める。
- 教育プログラム全体にわたり連携して、教育目標の実現に資する。
- これらを通して、中等・高等教育に対する地域社会の期待に応える。